

# 根治的前立腺全摘除術説明書および承諾書

患者氏名： 殿

## 1. 病名： 前立腺癌

## 2. 現在の症状

PSA（前立腺特異抗原）が高値であり、生検にて前立腺癌と診断されました。前立腺癌の進行度から、根治的治療の適応と判断されます。

## 3. 手術の必要性、可能な別の治療法

前立腺癌は、もし治療しなければ、癌が進行し、前立腺以外の部位に転移する可能性が高い病気です。前立腺癌の治療には、大きく分けて手術療法・放射線療法・ホルモン療法の3つがあります。前立腺に限局している癌の場合には、手術療法と放射線療法は癌の根治が期待できる優れた治療法ですが、各治療法にはそれぞれリスクも伴います。手術治療のリスク（後述）を十分に理解した上で、手術に同意することが大切です。

- ・放射線療法：前立腺に放射線を照射することにより、癌細胞を死滅させる治療法です。放射線による後遺症（直腸出血、出血性膀胱炎など）の心配があります。また、放射線療法後にも、癌が残存する可能性があります。
- ・ホルモン療法：男性ホルモンを抑制することで、前立腺癌を縮小させる治療法です。基本的に、癌の根治は期待できません。また、男性ホルモンを抑制することに起因する副作用の可能性もあります。

## 4. 手術の方法

- 1) 手術予定日：令和 年 月 日  
手術予定時間 約 時間（麻酔時間 約 時間）
- 2) 手術名：根治的前立腺全摘除術
- 3) 麻酔方法：全身麻酔+硬膜外麻酔（麻酔科医による）

#### 4) 手術の方法とその特徴

この手術は前立腺全体を精嚢も含めて摘出するものです。以下に手順を示します。

- ① 臍から下を縦に切開して、膀胱・前立腺の前面を展開します。
- ② 周囲リンパ節を摘出します。
- ③ 前立腺前面の太い血管を処理し、前立腺と尿道括約筋の間、前立腺と膀胱の間を切断し、前立腺と精嚢を一塊にして摘出します。
- ④ 膀胱と尿道をつなぎ合わせ、尿道から膀胱にカテーテル（くだ）を留置しておきます。
- ⑤ 膀胱と尿道をつないだ周辺にドレーン（排液管）を入れて創を閉じます。

### 5. 手術に伴う危険性

#### 1) 出血：

前立腺周囲には多くの血管が存在し、手術操作に伴いかなりの出血を見ることがあります。手術前にあらかじめご自身の血液を貯めておき、これを手術中に輸血することがあります。それでも血液が足りないときには、他の方から採取した血液を輸血する場合があります。

#### 2) 直腸損傷・尿管損傷：

前立腺の後面は直腸と接しています。前立腺周囲に炎症がある場合や癌が浸潤している場合には直腸との間に癒着があり、これを処理する際に直腸を損傷することがあります。程度の軽い損傷であれば通常はこれを縫合閉鎖し、食事開始をやや遅らせることで対処可能です。万一大きな損傷になった場合は外科の協力の下、一時的に人工肛門を造設するなどの処置が必要になる場合があります。また、前立腺の後面や精嚢を処理する際に近くを走行する尿管を損傷することがまれにあります。

#### 3) 尿失禁：

前立腺と尿道の近傍には尿の漏れを止める働きをする尿道括約筋が存在します。前立腺の摘除に伴いこの括約筋もある程度損傷するため、手術後尿道カテーテルを抜去すると尿失禁が高率にみられます。しかし、尿失禁は時間経過と共に改善し、長引く場合でも数ヵ月後には日常生活に支障のない程度まで回復する場合はほとんどです。万一、尿失禁が6ヵ月～1年以上持続する場合には、詳しい検査をしてから、尿失禁の治療を行うことが可能です。

#### 4) 排尿困難：

膀胱と尿道をつなぎ合わせた部分が狭くなり、排尿が困難になることがあります。また、手術後に膀胱の筋肉の収縮力が低下して、尿の勢いが弱くなることがあります（尿勢低下）。排尿困難や尿勢低下が続く場合には、詳しい検査を行うことがあります。

#### 5) 男性機能障害：

前立腺の後ろ側の側面には陰茎の勃起に関連する神経が走行しています。通常の手術操作では高率にこの神経を損傷するため、術後に勃起不全を生じます。神経を温存する方法もありますが、確実に勃起機能が回復するとは限りません。勃起機能の温存を希望される場合には、術前に担当医とよく相談する必要があります。なお、勃起能が温存されても前立腺・精嚢を摘除する結果、射精は不可能になります。

#### 6) リンパ浮腫

リンパ節を切除することで、この部分のリンパ液の流れが悪くなることにより、足にむくみが出る場合があります。リンパ節が切除されてもリンパ液は副行路（脇道）を流れますので、むくみが出る場合は通常片側です。リンパ浮腫は、放っておいても命にかかわることはありませんし、約7割の方は3ヵ月以内に軽快しますが、約3割の方はむくみが残ることがあり、さらに進行することがあります。リンパ浮腫のケア方法にはマッサージ（リンパドレナージ）・ストッキング（医療用品です）の使用・運動等があります。また、日常生活の中では、圧迫されるような下着や衣類を避けることや、肥満の予防、セルフマッサージなどを心がけていただくことも大切です。リンパ浮腫が長引くと感染症を引き起こし治療が必要となる場合があります注意が必要です。

#### 7) 局所合併症：

- ・手術した部分に血液やリンパ液が溜まる場合があります。こうした溜まりを防ぐためにドレーン（排液管）を手術創の近くから入れておきますが、排液の流出が続き、ドレーンの抜去が遅れる場合があります。
- ・創の内部や表層に細菌感染が起こり、膿がたまったり発熱したりする場合があります。適切な抗生剤の使用によりその予防・治療に努めますが、場合により切開・排膿の処置が必要になります。感染や血流障害などにより、創の治癒が遅れたり、一旦癒合した創が開いてしまい、再縫合を要す場合がまれにあります。

#### 8) その他：

全身麻酔下の長時間の手術になりますので、無気肺・肺炎などの肺合併症を起こす場合があります。また、麻酔・抗生物質・出血・輸血などが原因で肝臓や腎臓の機能障害を併発する場合があります。その他にも手術後に鼠径ヘルニアを発症する割合が10%前後あることが報告されています。

#### 9) 閉鎖神経切断：

リンパ節を摘出する際に切断してしまうことがあります。癌の浸潤が強い時も切断します。階段の昇りお降りや、車の座席に乗るときに足を内側にもちあげることが困難になります。神経を修復できれば術後のリハビリである程度機能が回復することがありますが、修復できない

時は障害が残ります。

## 6. 通常は起きない重篤な合併症

- 深部静脈血栓症・肺塞栓症：手術中は身体を動かさないため、血流が滞り、血栓ができやすい状態になっています。極めて稀ですが、足などにできた血栓が身体を動かした際に肺の血管に詰まり、呼吸不全や循環不全を起こして死に至る可能性がある肺塞栓症がおこることがあります。
- 下肢静脈血栓予防措置に伴う血流障害：手術中、必要に応じて下肢静脈血栓の予防のため、下腿を定期的に自動で圧迫する装置を取り付けます。これは上記の肺塞栓症などの重篤な合併症を予防するために必要な処置ですが、極稀に圧迫により部分的に皮膚や筋肉の血流が悪くなり同部位の壊死や神経障害をひきおこしてしまうことがあります。
- その他：非常に稀ですが、手術中や手術後に心筋梗塞、脳梗塞、脳出血などの予想できない問題が起こることがあります。すばやく原因をつきとめ最善の対応を行います、重篤な経過をたどる可能性や死亡の可能性もあります。

## 7. 手術後の経過

- ・手術当日は点滴・酸素吸入がされ、ベッド上安静で歩行や食事は出来ません。
- ・手術翌日から状態に応じて飲水、食事、歩行が可能となります。術後ドレーンからの排液量が減少すれば抜去します。
- ・1週間から10日目に尿道留置カテーテルから造影剤を注入し、漏れがないかどうかを検査して、膀胱と尿道がうまくつながっていればカテーテルを抜去します。造影剤の漏れがある場合にはカテーテルをもう1週間程度留置しておきます。カテーテルを抜去後、数日～1週間程度で退院可能となります。
- ・摘出物の病理検査の結果、癌がリンパ節に転移している、前立腺周囲に広がっている、あるいは癌が取りきれないと判断される場合があります。こうした場合、残存病変の部位や程度によりホルモン療法や放射線療法を追加することがあります。

## 8. 特記事項

- \* 上記内容に関して説明を受け、質問する機会があり、理解された場合には、下記に本人、または代諾者の署名あるいは記名・捺印をお願いします。
- \* 上記内容に関する説明が理解できない場合には、主治医にその旨申し出てさらに説明を受けるなどして、十分に理解されたうえで、署名あるいは記名・捺印を行って下さい。
- \* 手術を承諾した後であっても、手術前であれば、いつでも、すでに行った承諾を撤回すると共に、その他の治療方法を選択することが可能です。
- \* 治療法につき不明な点や心配なことがありましたら、いつでも主治医にご相談下さい。

旭川医科大学病院 説明場所 \_\_\_\_\_

説明日時：令和 年 月 日 時 分 ～ 時 分

説明者 職名 泌尿器科医師  
署名または記名・捺印 \_\_\_\_\_ 印

患者の署名または記名・捺印 \_\_\_\_\_ 印

住所 \_\_\_\_\_

代諾者の署名または記名・捺印 \_\_\_\_\_ 印

続柄 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

同席者署名または記名・捺印 \_\_\_\_\_ 印

続柄 \_\_\_\_\_

同席者署名または記名・捺印 \_\_\_\_\_ 印

続柄 \_\_\_\_\_